

三重大学社会連携研究センター伊賀研究拠点

伊賀地域の行政・企業との共同研究支援拠点

三重大学社会連携研究センター伊賀研究拠点は、伊賀市や三重県などと連携して、「環境・食・文化」に関する調査、新商品開発研究などを軸とした新産業育成を図るとともに、文化的啓発活動を通じた地域活性化への貢献を目標としています。同時に地域企業などと連携して、大学の研究領域の拡充と学生の就職機会の増大も目指しています。



伊賀研究拠点が入る「ゆめテクノ伊賀」

21世紀に入り、10年余が経過した今日、我々は人類史上かつて例を見ない巨大な転換期を迎えようとしています。世界も日本も、地球温暖化や人口爆発による食糧危機、さらにエネルギー危機の不安を抱えながら未知の時代に踏み入ろうとしています。環境の時代と言われて久しくなりますが、地球規模から身近な問題に至るまで、これほど真剣に環境について議論がなされてきたことはありませんでした。持続的生物生産と環境保全をいかに調和させるかという課題を背負い、大学の使命と責任はさらに重要になりつつあります。

また、低迷する日本経済の中にあつて、大学に対して、これまで以上に質の高い人材の育成供給とともに、企業や地域への社会貢献が求められるようになってきました。産官にとって、より身近な存在の大学へ脱皮することも避けては通れない課題です。

伊賀市は合併を契機に、念願としてきた高等教育機関の誘致を決意しました。そして、誘致する高等教育機関を通して、市民の文化的啓発と地域産業との共同研究の促進を希求してきました。一方、三重大学は大学の中期計画の中で、確固たる地域圏大学の確立を目指して、地域活性化のための連携融合事業を行うことを目標に掲げてきました。この両者の夢が合致し、結実したのがこの三重大学社会連携研究センター伊賀研究拠点です。

ここでは大学と伊賀地域が連携して、「環境と食と文化」に関する新産業の育成を図るとともに、文化的啓発活動を通じた地域活性化への貢献を目的としています。そして、究極の目標として、ベターライフの実現を掲げています。ベターライフとは、環境保全と持続的な生産を調和させ、かつ伝統とモダニズムを融合させた知的好奇心を満足させる健康的な生活のことと定義しました。

当面、活動を開始する研究分野はバイオテクノロジーとエコテクノロジーが主となりますが、そのほかの分野の参入も見込まれています。

今後、本拠点では、これまで大学が培ってきた地域連携の経験の長所と短所を検討し、大学関係者以外にも理解されやすく、そして多くの人々に平易にアクセスされる研究施設を目指します。多くの関係者の関心と支持によって、この研究施設が活用され、さらなる伊賀地域の飛躍に貢献できることを願っています。

三重大学伊賀研究拠点が行う「地域の特性を活かした循環型社会構築の高度化事業(平成23~25年度)」

<b>テーマ① バイオマスタウン構想の実現について</b>
<b>事項</b> カーボンオフセットの算定、菜種油による地域交流、伊賀焼容器による廃食油の回収など
<b>テーマ② バイオマテリアルの開発について</b>
<b>事項</b> 医薬、化粧品、食品、環境健康学
<b>テーマ③ 産業廃棄物処理の高度化について</b>
<b>事項</b> 有害系→無害化、食品残渣→コンポスト化、ゼロエミッション化、悪臭対策など
<b>テーマ④ 森林・里山と伊賀文化の再生について</b>
<b>事項</b> マツタケ十字軍、獣害・竹害対策、木質ペレット開発、忍者の知恵の活用など
<b>その他 事項</b> 産学連携、技術相談、インキュベーション機能、人材育成機能



2013年8月9日「第8回こども大学」をゆめテクノ伊賀にて開催。伊賀研究拠点は毎年共催として参加し、講師を派遣している。

三重大学社会連携研究センター伊賀研究拠点

http://www.iga.mie-u.ac.jp/

お問い合わせ先 TEL:0595-41-1071 FAX:0595-41-1062

T O P I C S

三重大学の研究と研究活動を通じた社会との連携

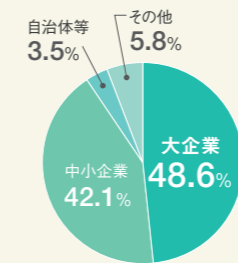
三重大学は教育と研究の成果を社会に還元するために、産業界や地域の公共団体との共同研究等の連携活動を推進しています。大学は、この連携によって、地域の文化の向上や活性化に貢献していきたいと考えています。

◎平成24年度共同研究の分類

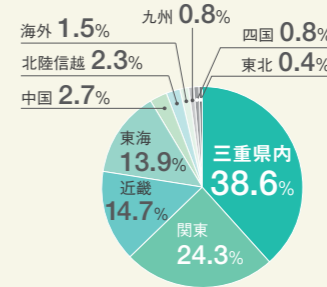
共同研究総計

件数	259件
金額	422,483千円

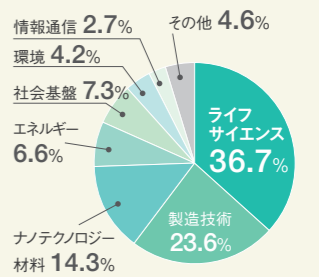
[共同研究相手先の規模等]



[共同研究相手先の所在地]



[共同研究の分野]



◎平成25年度大型研究(1,000万円以上の共同研究、受託研究)

事業名	研究題目	契約相手方	学部等名	研究代表者名
戦略的創造研究推進事業	元素戦略を基軸とする物質・材料の革新的機能の創出	独立行政法人科学技術振興機構	工学研究科	今西誠之
戦略的創造研究推進事業(先端的低炭素化技術開発)	革新的高エネルギー蓄電システムの開発	独立行政法人科学技術振興機構	工学研究科	今西誠之
研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)	新世代全固体フレキシブルリチウム二次電池の開発	独立行政法人科学技術振興機構	工学研究科	武田保雄
先天性代謝異常検査事業	先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症	三重県	医学系研究科	駒田美弘
戦略的創造研究推進事業(CREST)	海馬神経回路形成と可塑性の発現における形態学的解析	独立行政法人科学技術振興機構	医学系研究科	溝口 明
戦略的創造研究推進事業(ERATO)	バイオナノトランスポーターを応用したがん免疫療法の研究開発	独立行政法人科学技術振興機構	医学系研究科	珠玖 洋
次世代がん研究戦略推進プロジェクト	「効果的な複合免疫療法の確立」(T細胞養子免疫療法における投与T細胞と免疫効果の評価による治療戦略の構築)	文部科学省	医学系研究科	池田裕明
復興促進プログラム(産学共創)	廃棄海苔スフェロブラスト飼料を用いた二枚貝・ナマコの共棲畜養システムの開発	独立行政法人科学技術振興機構	生物資源学研究科	吉松隆夫
草の根技術協力事業(草の根協力支援型)	フィジー共和国ガウ島統合的開発支援事業:南太平洋しあわせ島づくり協力支援	独立行政法人国際協力機構	生物資源学研究科	吉松隆夫
イノベーション創出基礎的研究推進事業<技術シーズ開発型>	トランスクリプトーム解析とセルロソーム再構築ブタノール生産菌の創製	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構	生物資源学研究科	三宅英雄
地球温暖化対策技術開発等事業	相分離変換法を用いた木質バイオマスの全量活用型低コストエタノール製造技術実証研究	環境省	生物資源学研究科	船岡正光
戦略的創造研究推進事業(CREST)	有用フィットケミカル活用のための大型褐藻類対応プラットフォーム技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構	生物資源学研究科	柴田敏行
チーム「ニッポン」マルチサポート事業	酸素濃度調整マスクの開発	文部科学省	教育学部	杉田正明

(2013年4月現在)

◎平成23年度共同研究

[件数による順位]

順位	法人名	共同研究件数	順位	法人名	共同研究件数
1	東京大学	1,547	11	大阪府立大学	331
2	東北大学	862	12	神戸大学	301
3	大阪大学	859	13	筑波大学	278
4	京都大学	844	14	信州大学	276
5	九州大学	690	15	千葉大学	275
6	北海道大学	514	16	三重大学	264
7	東京工業大学	477	17	早稲田大学	254
8	名古屋大学	468	18	名古屋工業大学	237
9	慶應義塾大学	425	19	東京農工大学	228
10	広島大学	344	20	横浜国立大学	222
			20	金沢大学	222

[金額による順位]

順位	法人名	共同研究受入額(千円)	順位	法人名	共同研究受入額(千円)
1	京都大学	5,782,291	11	早稲田大学	684,892
2	東京大学	5,105,498	12	広島大学	665,750
3	大阪大学	3,146,275	13	筑波大学	646,539
4	東北大学	2,839,820	14	東京農工大学	546,671
5	九州大学	1,900,932	15	名古屋工業大学	534,553
6	慶應義塾大学	1,588,278	16	東京理科大学	499,143
7	東京工業大学	1,530,202	17	千葉大学	426,755
8	名古屋大学	1,387,412	18	三重大学	411,892
9	北海道大学	1,188,843	19	熊本大学	383,784
10	神戸大学	783,146	20	徳島大学	380,860

(文部科学省HPデータより)